

ハンドルの重みは命の重み

交通事故・飲酒運転 ゼロ に

公益財団法人交通遺児育英会は1969年の設立以来、保護者が道路上の交通事故が原因で亡くなったり、重度の後遺障を負ったりしたため、経済的に困窮する子どもたち(交通遺児)に、奨学金の貸与や給付事業を柱に、学生寮の運営や海外語学研修などのさまざまな支援を続けてきた。また、交通遺児を生まないために交通事故・飲酒運転ゼロを目指し、交通安全推進運動への協賛・協力事業も展開している。

オホーツク管内西興部村では、交通事故死ゼロ期間が2022年6月に1万日目を達成した。道内最長で、24年7月13日現在も記録を更新し続けている(連続10,756日)。

ここでは、同会の石橋健一会長と、村をあげて交通事故防止に取り組んできた西興部村・菊池博村長に、交通遺児支援、交通事故と飲酒運転の撲滅などについて語ってもらった。

企画制作／北海道新聞社営業局



公益財団法人 交通遺児育英会
会長 石橋 健一氏
いしばしけんいち 1942年生まれ。北見柏岡高校卒、北海道大学工学部卒業後、日新製鋼入社。呉製鉄所エネルギー技術課、本社人事課などを経て、96年交通遺児育英会に転向。事務局長、専務理事、理事長を歴任し2023年6月より現職。



西興部村
村長 菊池 博氏
きくちひろし 1957年生まれ。興部高校卒業後、西興部村農業協同組合(現:オホーツクはまなす農業協同組合)に就職。管理部長、西興部支所長、全道共済部長、参事なども歴任。2015年西興部村長に初当選。現在3期目。

「ゼロが当たり前」の社会へ

交通事故死ゼロ1万日超えの西興部村
西興部村は2022年6月に交通事故死ゼロ期間1万日目を達成しました。全道、全国の模範になる素晴らしい記録です。

菊池 当村は冷涼な気候を生かした酪農が基幹産業で、牛のふん尿を使ったバイオガス発電も盛んです。総面積の約9割を森林が占め、エレキギター用のボディ「製造など木材加工もしています。特別養護老人ホームや障がい者支援施設などを建設し「福祉の村」としての整備を進めています。小さな村だからこそできることがあると強く信じて、村民とともにさまざまなチャレンジをしてきました。交通安全の取り組みもその一つです。

石橋 国道が村の中心部を貫いており、車の交通量は決して少なくありません。にもかかわらず、これだけ長期間交通事故死ゼロが続いているのは、簡単なことではないですね。

菊池 当村の交通事故死ゼロ期間1万日超えは、村民が地域一丸で交通安全運動に取り組んでくれた成果で、1995年1月31日から29年5カ月を積み重ねた記録です。6・10月の15日の夕方、村の呼び掛けに応じた住民や村の職員が国道沿いに立ち、ドライバーに黄色い旗を振り交通安全を訴えています。毎年、村内の小中学生からアザシンを募集して交通安全旗を制作しています。沿道には約300枚の安全旗が子ども達の目線の高さに掲げられており、地域の宝である子どもが被害者となる交通事故を未然に防ぐ大きな力になっています。交通安全を妨ぐ特効薬はありません。交通事故を防ぐのは、何より一人一人の心掛けです。交通安全は自分自身が主役であることを毎日、意識すること。大切なのは身近な人同士の声掛けだと思います。朝、家を出る家族に「車に気を付けてね」「スピードを出し過ぎないようにね」と声掛けするだけで、意識が変わってきます。短期間の効果は期待できませんが、続けていくことで、一人一人の行動は変わります。現在は、2025年に「30年間ゼロ」を達成するという新目標へ奮いを新たに、強力に交通安全運動を推進しているんです。

石橋 多岐にわたる支援事業で、交通遺児の学びを支える。交通遺児育英会設立の経緯を教えてください。

菊池 遺族の言葉から始まっているのですが、私も交通事故で肉親を亡くしています。また、農業協同組合勤務時代は共済(保険)事業を担当し、交通事故の悲惨さ、遺族の大変な状況を目の当たりにしてきました。交通事故は残された家族の人生を変えてしまう。その支援を

石橋 千代子(セイシヨンの)の側面と云える交通事故。中でも保護者が事故に遭い、経済的に困窮した子どもたちを救おうと1969年に設立しました。残された家族の「わが子をせめて高校には進学させたい」との声をききかかて支援運動が広がりを、設立につながりました。以来、約5万8千人を支援し、年間の支援額は約6億円に上ります。

続けられているのはすごいことです。

石橋 大き分けして5つの事業に取り組んでいます。「奨学金の貸与(一部給付)」「修学支援金給付」「奨学生の指導と育成(一学生寮の運営)」「交通安全の推進」です。中心は奨学金事業です。2023年度は855人が奨学生として高校、大学、大学院、専修学校などを通して、支援した奨学金の総額は5億3500万円でした。無利子貸与に加え、卒業後の返還負担を軽減させるため「給付型奨学金」を新設しました。20年度からは大学生以上は月2万円、23年度から高校生は月1万円の給付型奨学金を開始しています。また、本年度は、要望の多かった浪人生支援と英語検定試験費用補助をこの4月から開始しました。

菊池 交通遺児家族には、われわれのような支援組織を知らない人もいます。一人でも多くの交通遺児を支援したいと、22年度に広報活動を強化するため「広報課」立ちあげました。全国組織である当会のほかにも、北海道内には「北海道交通安全推進委員会」「北海道交通遺児の会」といった交通遺児の支援団体さんがあります。それぞれの会の事業内容や、各団体が連携し、子どもが大人になるまでの切れ目ない支援を実現していることなどを、もっと広く知ってもらおうと努めています。普段は気にも留めないだけでも、大変なことが起こった時に、存在を思い出していただければいい。そして、ためらわず「助けて」と声をあげてほしい。当会では、最後の一人まで、すべての交通遺児が修学できる経済的な環境を整備することを目指しています。

石橋 多くの奨学生や保護者が待ち望んでいた「高校奨学生(保護者のついで)」、高校生の「海外語学研修」などといった交流事業を4年ぶりに再開しました。さらに、年2回開催してきた「語りカフェ(地域保護者懇談会)」の回数を昨年度から増やし、交流頻度を高めています。参加者が「親同士、悩みを打ち明けられ、つながりができた」と感謝されています。また、地方出身の奨学生向けの学生寮「心塾」を今年4月に刷新しました。心塾の目的は、「東京の大学で勉強したい」という夢をかかなることに、「温かい心」

菊池 交通遺児育英会の奨学金をもちつて学校に通い、当村の職員になった者がいます。事故撲滅の願いは人一倍強く、日頃から交通安全のPRに努めています。交通遺児として支援を受けた人が、地域のために交通安全運動に尽力する仕事に就いている。つながりを感ずります。交通遺児育英会では、学資以外の面でも交通遺児を支えたいと思っています。

石橋 多くの奨学生や保護者が待ち望んでいた「高校奨学生(保護者のついで)」、高校生の「海外語学研修」などといった交流事業を4年ぶりに再開しました。さらに、年2回開催してきた「語りカフェ(地域保護者懇談会)」の回数を昨年度から増やし、交流頻度を高めています。参加者が「親同士、悩みを打ち明けられ、つながりができた」と感謝されています。また、地方出身の奨学生向けの学生寮「心塾」を今年4月に刷新しました。心塾の目的は、「東京の大学で勉強したい」という夢をかかなることに、「温かい心」

石橋 あるお母さまが言った「ハンドルの重みは命の重み」という言葉があります。誰もがこの言葉を心に留め、運転することが大切だと思います。これからも事業を通して、安全運転徹底と飲酒運転根絶を呼び掛けていきます。

菊池 これからも交通遺児家庭の課題や悩みを耳を傾け、寄り添っていく支援組織として長く活動していきたいと思います。学びたくても学ぶことができない子どもを一人でも減らしてほしいと思います。

石橋 交通遺児家族には、われわれのような支援組織を知らない人もいます。一人でも多くの交通遺児を支援したいと、22年度に広報活動を強化するため「広報課」立ちあげました。全国組織である当会のほかにも、北海道内には「北海道交通安全推進委員会」「北海道交通遺児の会」といった交通遺児の支援団体さんがあります。それぞれの会の事業内容や、各団体が連携し、子どもが大人になるまでの切れ目ない支援を実現していることなどを、もっと広く知ってもらおうと努めています。普段は気にも留めないだけでも、大変なことが起こった時に、存在を思い出していただければいい。そして、ためらわず「助けて」と声をあげてほしい。当会では、最後の一人まで、すべての交通遺児が修学できる経済的な環境を整備することを目指しています。

石橋 多くの奨学生や保護者が待ち望んでいた「高校奨学生(保護者のついで)」、高校生の「海外語学研修」などといった交流事業を4年ぶりに再開しました。さらに、年2回開催してきた「語りカフェ(地域保護者懇談会)」の回数を昨年度から増やし、交流頻度を高めています。参加者が「親同士、悩みを打ち明けられ、つながりができた」と感謝されています。また、地方出身の奨学生向けの学生寮「心塾」を今年4月に刷新しました。心塾の目的は、「東京の大学で勉強したい」という夢をかかなることに、「温かい心」

菊池 これからも交通遺児家庭の課題や悩みを耳を傾け、寄り添っていく支援組織として長く活動していきたいと思います。学びたくても学ぶことができない子どもを一人でも減らしてほしいと思います。

石橋 あるお母さまが言った「ハンドルの重みは命の重み」という言葉があります。誰もがこの言葉を心に留め、運転することが大切だと思います。これからも事業を通して、安全運転徹底と飲酒運転根絶を呼び掛けていきます。

石橋 あるお母さまが言った「ハンドルの重みは命の重み」という言葉があります。誰もがこの言葉を心に留め、運転することが大切だと思います。これからも事業を通して、安全運転徹底と飲酒運転根絶を呼び掛けていきます。

道民みんなでつくる 交通安全の輪

公益財団法人 北海道交通安全推進委員会 真弓 明彦 会長
公益財団法人 北海道交通遺児の会 松橋 謙一 会長

当委員会は、交通安全の推進に加え、ご寄付や募金により交通遺児への3つの応援を行っています。1つ目は、父母を亡くしたばかりの18歳未満の方々への「お見舞金」。2つ目は、乳幼児から中学生までの健やかな成長を願う返還不要の「給付金」。3つ目は、中高生等の方々の「奨学金(無利子貸付)」です。また、子ども達が大人になるまで社会全体で応援できるよう、他の支援団体と連携し「支援のパトン」をつないでまいります。

当会は、道内の交通遺児が明るく健やかに成長されることを願い、多くの皆さまからのご寄付などをもとに、入学のお祝い金や修学旅行支援金等の給付のほかレクリエーション、相談活動などを行っています。さらに、高校や大学等に進学を希望される方には、返済不要の奨学金をお渡しし、将来の夢や学びへの思いを応援しています。今後も、交通遺児が社会に巣立つまで、関係団体等と連携・協力して切れ目ない支援に努めてまいります。

公益財団法人 交通遺児育英会 TEL.03-3556-0771(代)

公益社団法人 北海道交通安全推進委員会 TEL.011-221-6666

公益社団法人 北海道交通遺児の会 TEL.011-232-8688

交通事故ゼロ、飲酒運転ゼロを目指して、無料出張講演を行っています。

交通遺児や保護者の方の体験を視聴いただくことは、交通安全の大切さを実感する絶好の機会となります。ぜひ、お問合せください。

- 1 奨学金の無利子貸与(一部給付)
- 2 奨学生の指導および育成と交流
- 3 学生寮「心塾®(こころじゅく)」の運営
- 4 修学支援金の給付
- 5 交通安全推進運動への協賛・協力、無料出張講演等

